

第51期 決算説明資料

(2016年4月1日 ~ 2017年3月31日)

株式会社 **工ノモト**

【会社名】 株式会社 **エノモト**

【英訳名】 ENOMOTO Co.,Ltd.

【証券コード】 6928 

【URL】 <http://www.enomoto.co.jp/>

【代表者】 代表取締役社長 武内 延公

【問合せ先】 経営企画部 久嶋 光博

【E-Mail】 ir@enomoto.co.jp

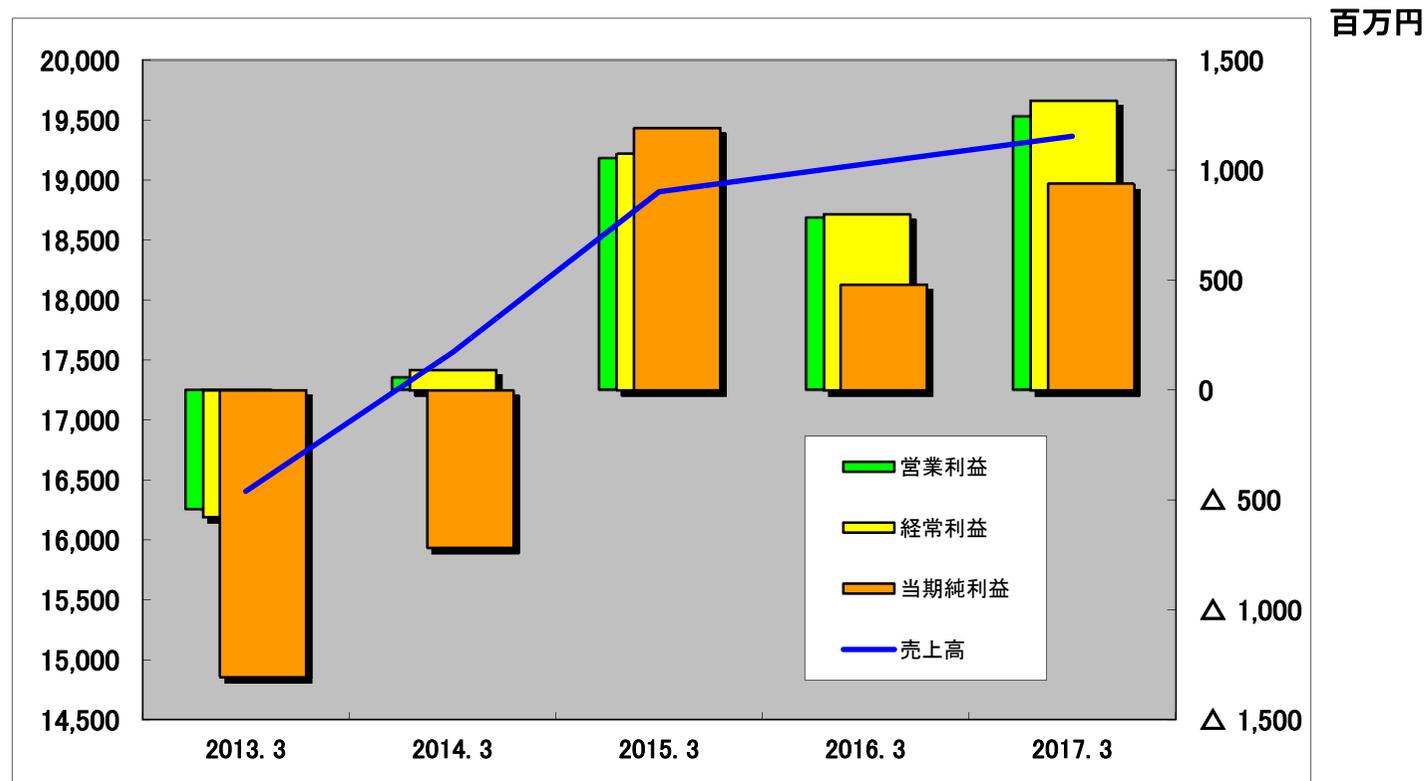
【本社所在地】 山梨県上野原市上野原8154-19

【電話番号】 0554(62)5111(代表)



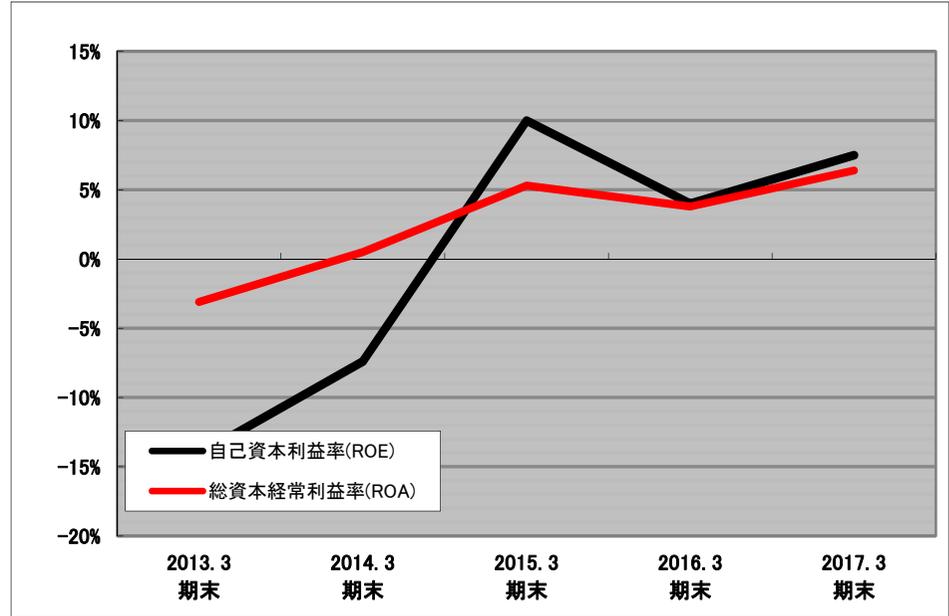
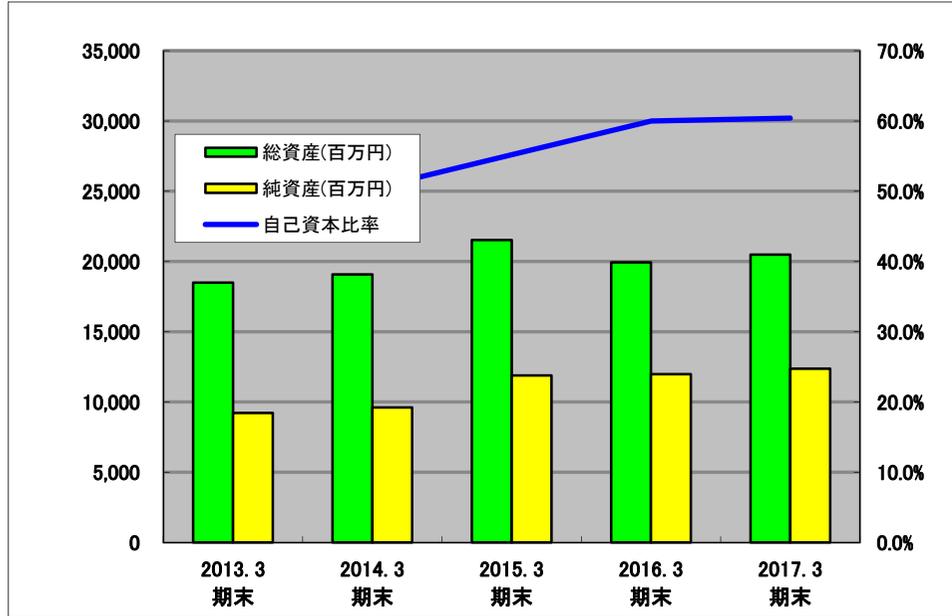
当期のご報告

■ 連結業績の推移



| | 2013.3 | 2014.3 | 2015.3 | 2016.3 | 2017.3 | 前期比 |
|--------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高 | 16,405 | 17,563 | 18,903 | 19,135 | 19,366 | 1.2%増 |
| 営業利益 | △ 542 | 57 | 1,050 | 781 | 1,240 | 58.8%増 |
| 営業利益率 | -3.3% | 0.3% | 5.6% | 4.1% | 6.4% | 2.3P増 |
| 経常利益 | △ 574 | 93 | 1,072 | 799 | 1,314 | 64.3%増 |
| 経常利益率 | -3.5% | 0.5% | 5.7% | 4.2% | 6.8% | 2.6P増 |
| 当期純利益 | △ 1,300 | △ 713 | 1,189 | 480 | 936 | 94.7%増 |
| 当期純利益率 | -7.9% | -4.1% | 6.3% | 2.5% | 4.8% | 2.3P増 |

百万円



| | 2013.3 期末 | 2014.3 期末 | 2015.3 期末 | 2016.3 期末 | 2017.3 期末 |
|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 総資産(百万円) | 18,496 | 19,089 | 21,532 | 19,944 | 20,491 |
| 純資産(百万円) | 9,219 | 9,618 | 11,894 | 11,983 | 12,377 |
| 自己資本比率 | 49.8% | 50.4% | 55.2% | 60.0% | 60.4% |
| 自己資本利益率(ROE) | -14.1% | -7.4% | 10.0% | 4.0% | 7.5% |
| 総資本経常利益率(ROA) | -3.1% | 0.5% | 5.3% | 3.8% | 6.4% |

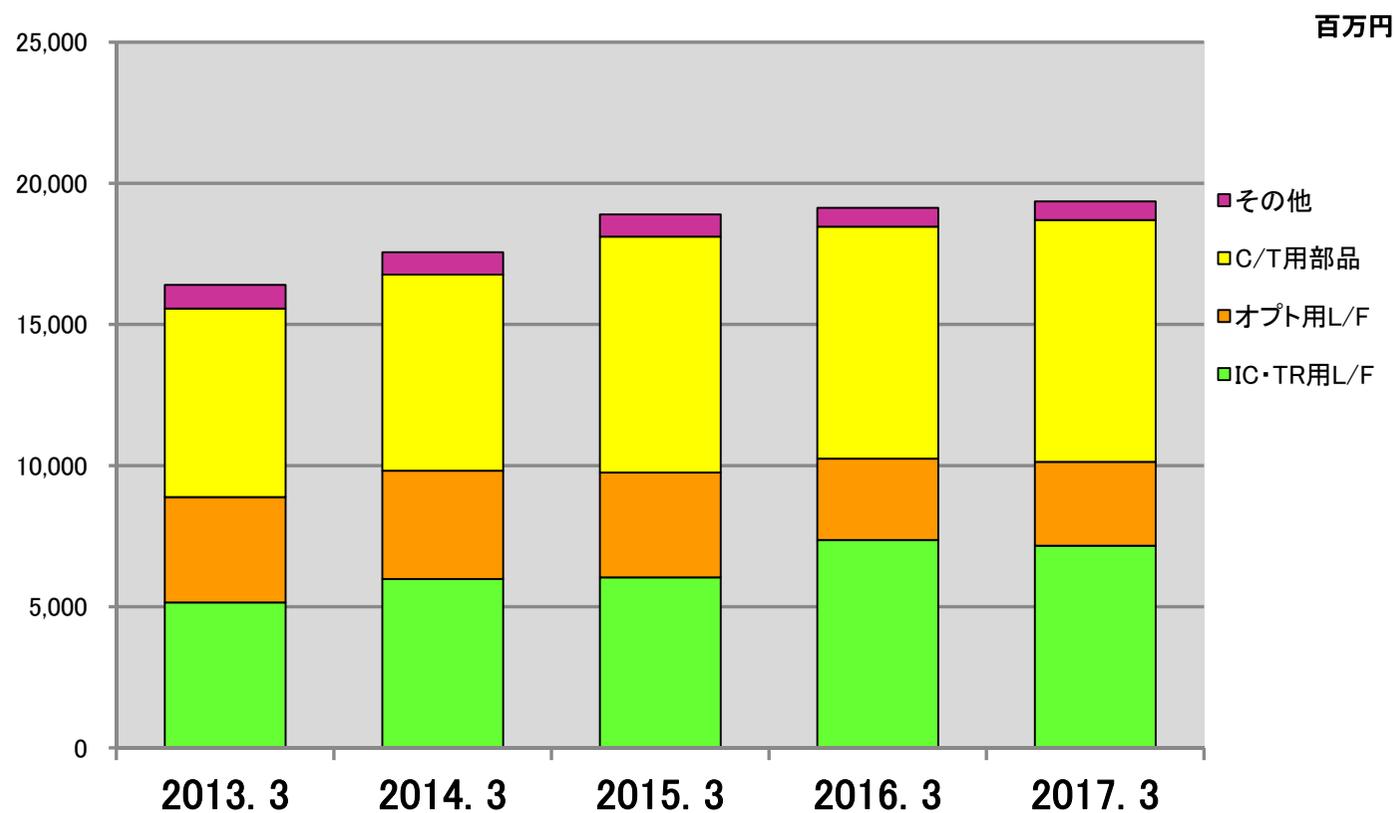
当連結会計年度におけるわが国経済は、政府主導による経済対策が一定の効果を上げていることなどにより、企業収益や雇用環境において緩やかながら回復し、成長基調が維持されております。一方で、見送られた消費増税を見越した需要先食いの影響や、若年層を中心とした将来への根強い不安感から個人消費の伸び悩みもありましたが、12月頃からは円安や株価上昇により消費マインドにも回復の兆しが見られております。

当社グループの属する電子部品業界におきましては、12月に北米メーカー製スマートフォンの減産が報じられましたが、中国メーカーの台頭などによって、電子部品業界全体への影響は軽減されました。また、自動運転技術を中心とする自動車向け部品や、IoTを支えるセンサー関連部品の需要が大きく成長しております。

このような状況下、当社グループは、業務の見直しによる効率化と更なる技術の研鑽により、収益力の向上に努めて参りました。

その結果、当連結会計年度の売上高は193億6千6百万円(前年同期比1.2%増)、営業利益は12億4千万円(同58.8%増)、経常利益は13億1千4百万円(同64.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は9億3千6百万円(同94.7%増)となりました。

■製品群別業績(売上高)



| | 2013. 3 | 2014. 3 | 2015. 3 | 2016. 3 | 2017. 3 | 増減率 |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| IC・TR用L/F | 5,151 | 5,984 | 6,040 | 7,362 | 7,164 | -2.7% |
| オプト用L/F | 3,733 | 3,839 | 3,717 | 2,887 | 2,973 | 2.9% |
| C/T用部品 | 6,683 | 6,946 | 8,356 | 8,221 | 8,565 | 4.1% |
| その他 | 836 | 792 | 788 | 663 | 662 | -0.1% |
| | 16,405 | 17,563 | 18,903 | 19,133 | 19,366 | 1.2% |

①IC・トランジスタ用リードフレーム

当製品群は、自動車向け、民生用機器向けが主なものであります。生産調整の局面もありましたが自動車の電装化率の上昇と一部の民生用機器向け部品の需要増加により、堅調に推移しました。その結果、当製品群の売上高は71億6千4百万円(前年同期比2.7%減)となりました。

②オプト用リードフレーム

当製品群は、LED用リードフレームが主なものであります。自動車向け、照明向けの需要が向上した影響で回復基調となりました。その結果、当製品群の売上高は29億7千3百万円(同3.0%増)となりました。

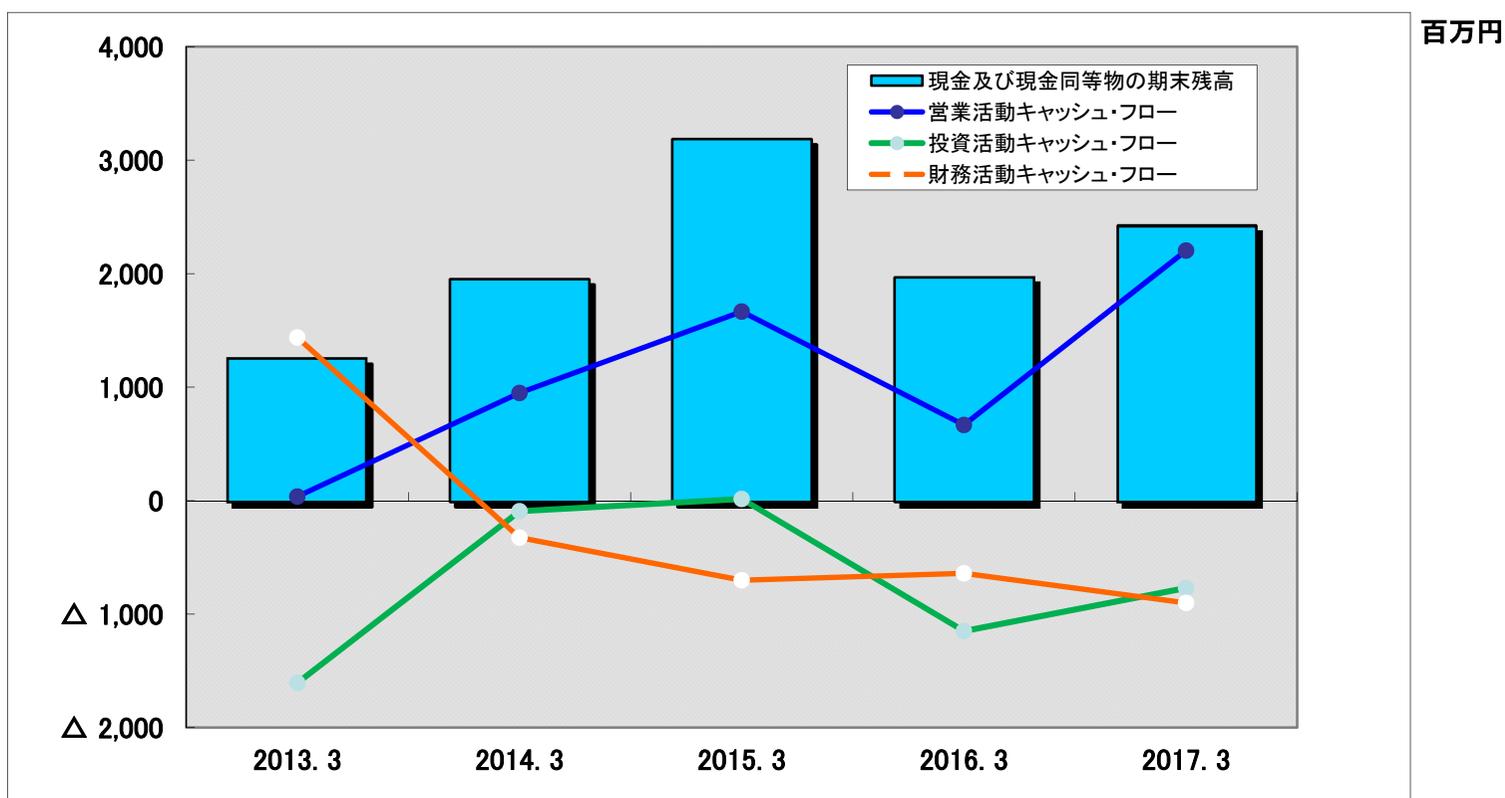
③コネクタ用部品

当製品群は、スマートフォン向け、デジタル家電向けが主なものであります。特に、スマートフォン向け部品が中心であり、中国メーカー向け部品の急激な受注増加が北米メーカー向け部品の伸び悩みを補いました。その結果、当製品群の売上高は85億6千5百万円(同4.2%増)となりました。

④その他

その他の製品群としては、リレー用部品が主なものであります。
当製品群の売上高は6億6千2百万円(同0.1%減)となりました。

■ キャッシュ・フロー



| | 2013. 3 | 2014. 3 | 2015. 3 | 2016. 3 | 2017. 3 | 前期比 |
|----------------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 営業活動キャッシュ・フロー | 36 | 948 | 1,666 | 667 | 2,203 | 1,535 |
| 投資活動キャッシュ・フロー | △ 1,606 | △ 94 | 15 | △ 1,150 | △ 769 | 380 |
| 財務活動キャッシュ・フロー | 1,438 | △ 326 | △ 702 | △ 640 | △ 901 | △ 260 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1,259 | 1,953 | 3,182 | 1,972 | 2,422 | 449 |

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ4億4千9百万円増加し、当連結会計年度末には24億2千2百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

➤ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は22億3百万円(前年同期は6億6千7百万円の取得)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益11億4百万円の計上及び減価償却費9億2千1百万円による資金の増加であります。

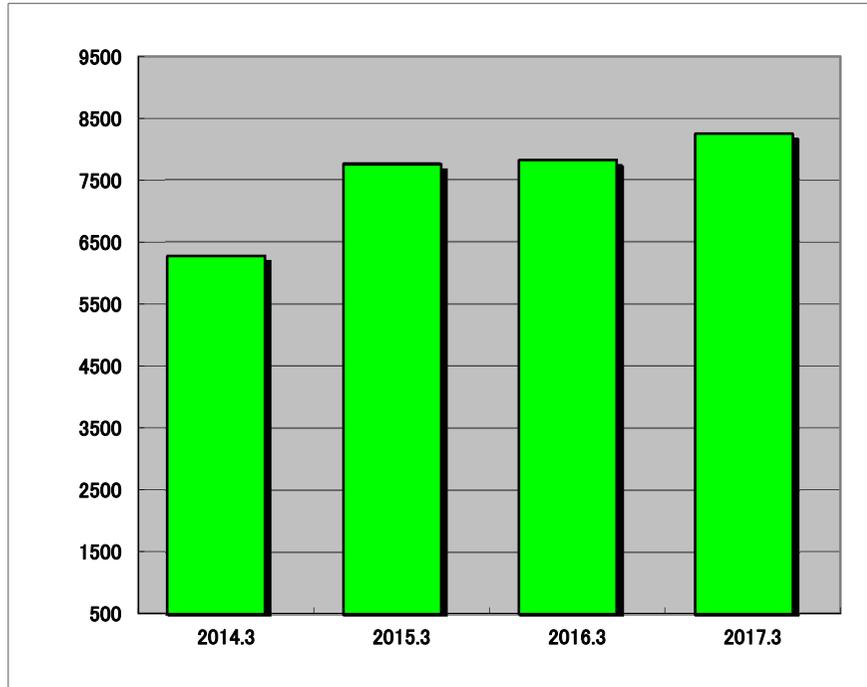
➤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は7億6千9百万円(前年同期は11億5千万円の使用)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出7億6千3百万円であります。

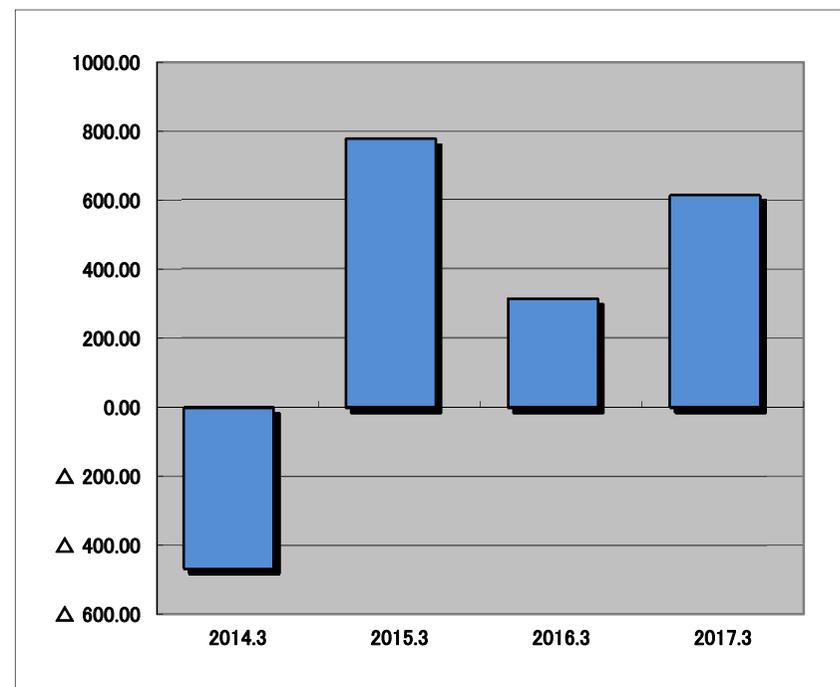
➤ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は9億1百万円(前年同期は6億4千万円の使用)となりました。これは主に借入金の純減額6億1千3百万円による資金の減少であります。

1株当り純資産(連結)



1株当り当期純利益(連結)



円

| | 2014.3 | 2015.3 | 2016.3 | 2017.3 | 前期比 |
|----------------|----------|----------|----------|----------|--------|
| 1株当たり純資産(連結) | 6,276.60 | 7,762.20 | 7,820.96 | 8,246.55 | 5.44% |
| 1株当たり当期純利益(連結) | △ 465.80 | 776.40 | 313.84 | 613.35 | 95.43% |

○配当について

当社は、株主に対する利益還元を経営の最重要政策と位置づけており、将来の事業展開と経営基盤強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当の継続を重視し、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としております。

当連結会計年度の中間配当は無配とさせていただきましたが、期末配当におきましては、当期の業績と配当性向を総合的に鑑み1株当たり100円とさせていただきたく存じます。

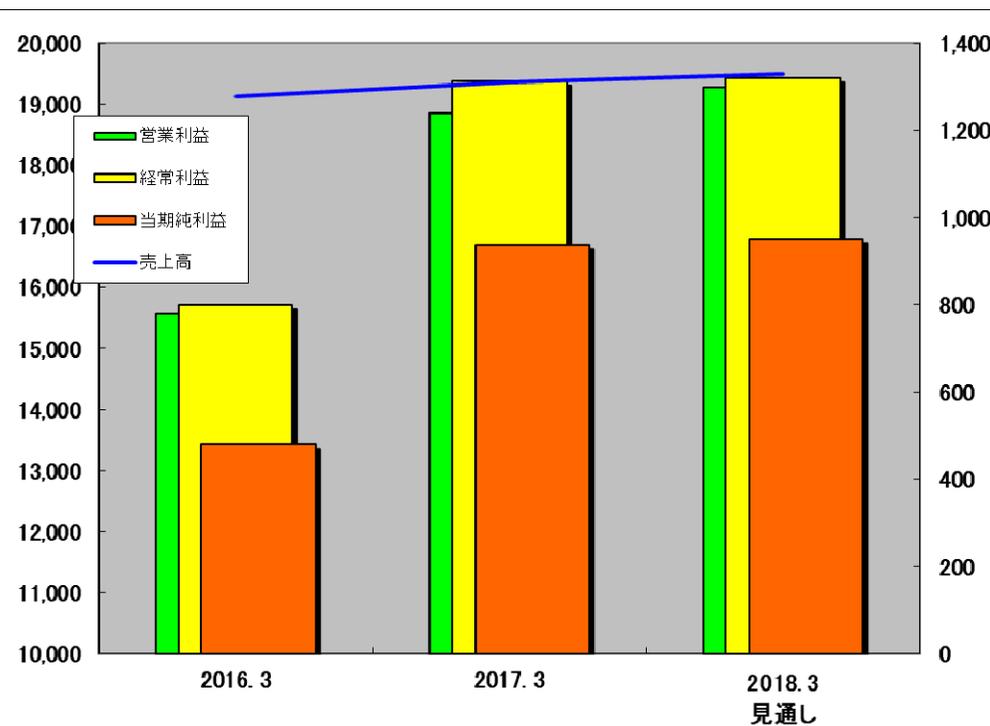
| | 年間配当金 | | | | | 配当金総額 (合計) 百万円 | 配当性向 (連結) % | 純資産配当 率(連結) % |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|----------------------|-------------------|---------------------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 | | | |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | | | |
| 28年3月期 | — | 0.00 | — | 6.00 | 6.00 | 91 | 19.1 | 0.8 |
| 29年3月期 | — | 0.00 | — | 100.00 | 100.00 | 149 | 16.0 | 1.2 |
| 30年3月期(予想) | — | 0.00 | — | 100.00 | 100.00 | | 15.8 | |

(注) 当社は、平成28年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。平成28年3月期については、当該株式併合前の実際の配当金の額を記載しております。

2017年3月期
の見通し

■ 通期業績予想

● 連結



| | 2016.3 | 2017.3 | 2018.3 見通し | 前期比 |
|--------|--------|--------|---------------|-------|
| 売上高 | 19,135 | 19,366 | 19,500 | 0.6%増 |
| 営業利益 | 781 | 1,240 | 1,300 | 4.7%増 |
| 営業利益率 | 4.08% | 6.40% | 6.67% | - |
| 経常利益 | 799 | 1,314 | 1,320 | 0.4%増 |
| 経常利益率 | 4.18% | 6.79% | 6.77% | - |
| 当期純利益 | 480 | 936 | 950 | 1.4%増 |
| 当期純利益率 | 2.51% | 4.83% | 4.87% | - |

次期の見通しにつきましては、アメリカ経済及びヨーロッパ経済ともに成長基調にあり、中国経済も減速感は一服している状況であります。それぞれに経済的、政治的または地政学的に大きなリスクを孕んでおり、情勢は非常に不安定であります。国内では企業業績の向上により当面は緩やかな成長基調が維持されるものと考えられますが、前述の国際情勢による影響が大きな変動要因となる可能性があります。

現在、当社の主力となっているスマートフォン及びタブレット型端末向けのコネクタ用部品の需要は、中国メーカー向け需要の急成長に加えて、北米メーカーの2017年発売モデルへの期待も大きく、一定以上の水準を維持できるものと見込んでおります。

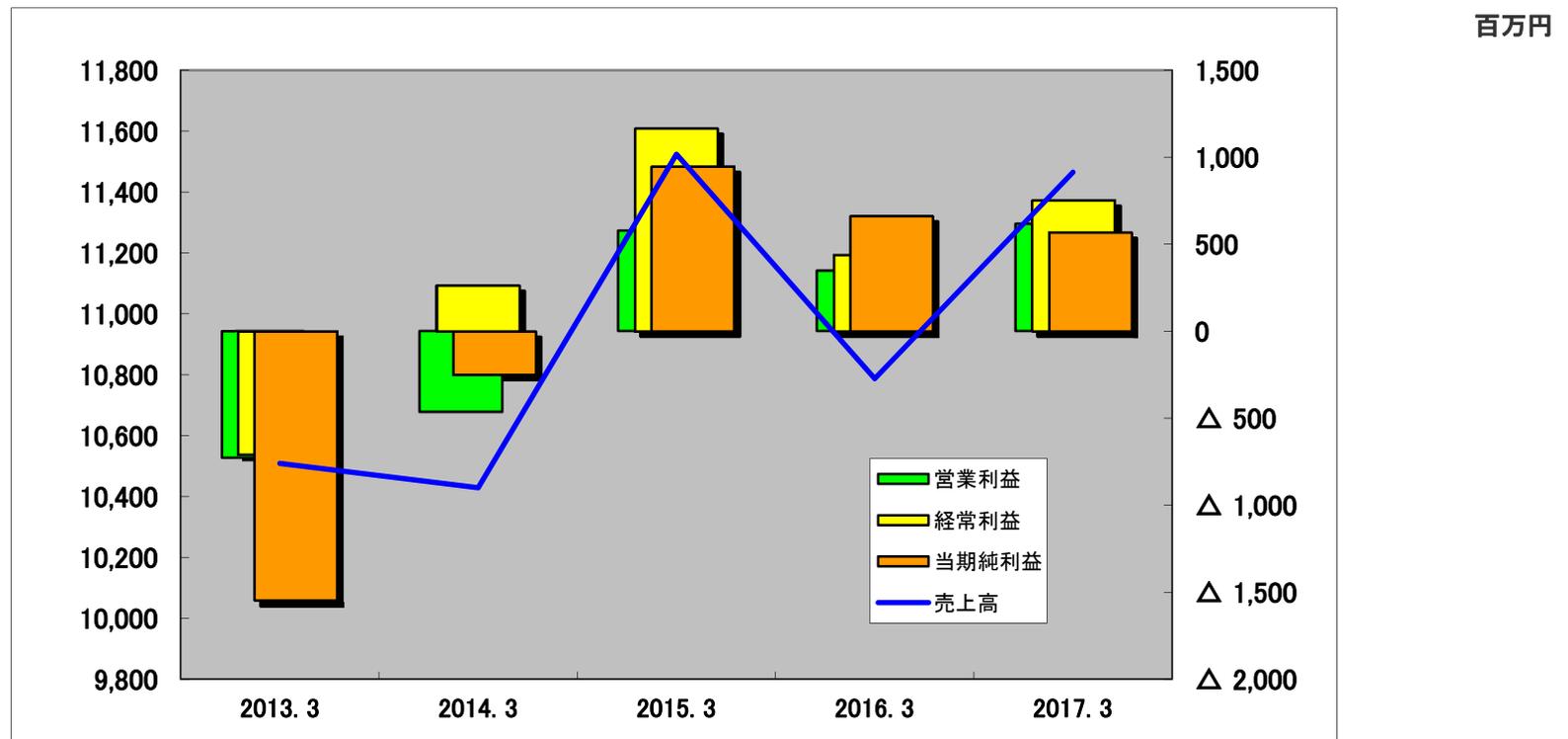
また、LED用リードフレームの受注環境は緩やかながら回復傾向にあり、IC・トランジスタ用リードフレームも自動車向け部品は安定的な需要が見込まれることから、堅調な受注量を維持できるものと期待しております。

このような環境下、当社グループは品質改善と製造コスト低減を目的とした製造工程の自動化・効率化を組織的に推進し、当社の強みである金属と樹脂の精密複合加工技術をベースとして過去の枠組みにとらわれない新たな顧客の開拓を積極的に行い、全社一丸となって売上及び収益力の向上に努めて参ります。

当社グループの平成30年3月期通期連結業績予想は、売上高195億円(前年同期比0.7%増)、営業利益13億円(同4.8%増)、経常利益13億2千万円(同0.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益9億5千万円(同1.4%増)を見込んでおります。

補足資料

■単体の業績推移



| | 2013. 3 | 2014. 3 | 2015. 3 | 2016. 3 | 2017. 3 | 前期比 |
|--------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 売上高 | 10,509 | 10,429 | 11,524 | 10,787 | 11,465 | 6.2%増 |
| 営業利益 | △ 727 | △ 464 | 576 | 347 | 615 | 77.1%増 |
| 営業利益率 | - | - | 5.0% | 3.2% | 5.4% | 2.1P増 |
| 経常利益 | △ 708 | 265 | 1,164 | 438 | 754 | 72%増 |
| 経常利益率 | - | 2.5% | 10.1% | 4.1% | 6.6% | 2.5P増 |
| 当期純利益 | △ 1,543 | △ 249 | 949 | 661 | 569 | 13.9%減 |
| 当期純利益率 | - | - | 8.2% | 6.1% | 5.0% | 1.1P減 |



中期経営方針

新たな価値の創造

～他社が真似のできない

ものづくりを追求する～

2017年度
経営重点テーマ

勇 気

当社グループは2016年度から2020年度の5年間に当社グループの事業運営の指針となる、中期経営方針として、『新たな価値の創造～他社が真似のできないものづくりを追求する～』を掲げております。



経営方針の2年目にあたる2017年度の経営重点テーマとして、『勇氣』を掲げました。

これは、すべての経営者及び従業員が、従前の慣習や常識に拠った思考・体質の枠組みから積極的に踏み出していく勇氣を持ち、さらに上のレベルの経営品質を目指すために、力強く成長を継続する決意を込めたものとなっております。

当社グループが対処すべき課題としては、下記の4点であると認識しております。

① 人材確保と育成

当社グループの経営理念にもありますとおり『経営の中心は人』であり、培ってきた技術力の継承と発展を担う、特に若い世代の技術者の確保と育成は恒久的な課題であります。国内外を問わず、様々な募集活動による、より幅広い人材の確保と、社内外の研修やOJT教育を組み合わせた育成により、対処して参ります。

② 新たな分野へのアクション

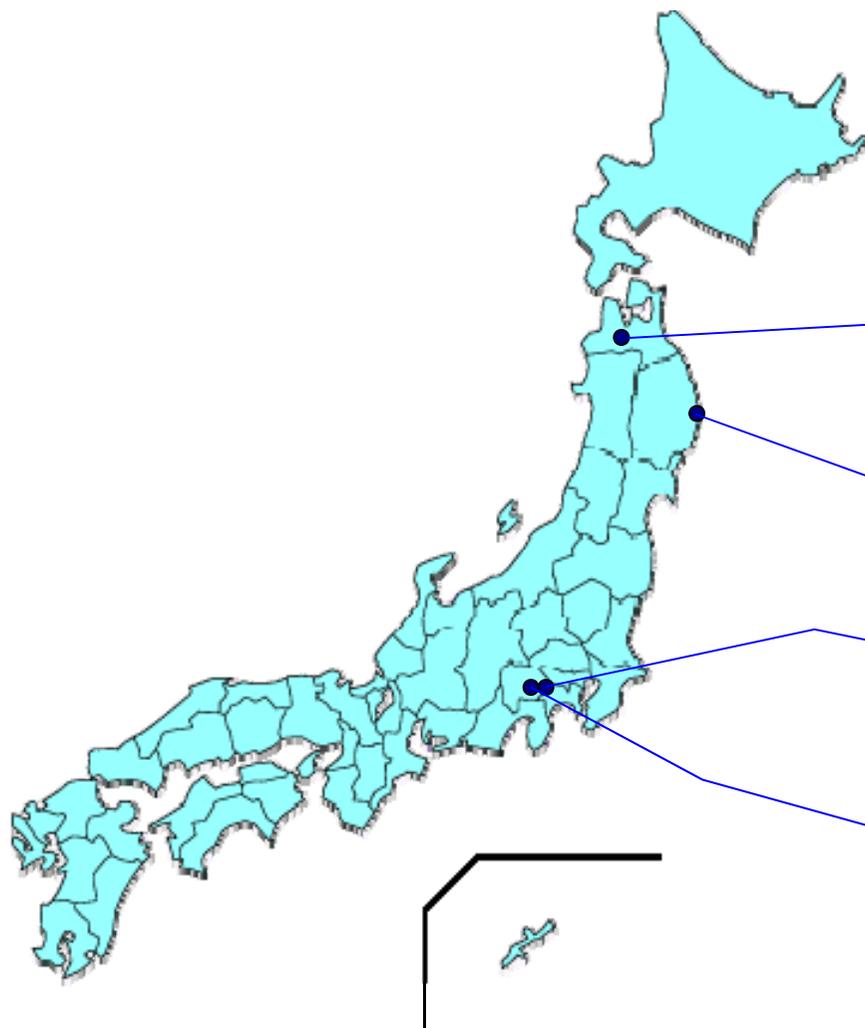
当社グループは、従前の事業のカテゴリーに囚われず、技術力や生産能力を生かせる分野への進出と、その準備について積極的に取り組んで参ります。

③ 生産効率の向上

従前より取り組んで参りました、製造工程の改革を継続致します。特に、効率化・自動化・省人化の推進に重点を置き、生産コストの一層の削減を目指して参ります。

④ 海外生産の拡大

昨年、新たにカビテ第2工場が竣工致しました、ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.を中心に、生産拠点の海外移転を推進し、生産の効率化と顧客サービスの充実を図って参ります。



・津軽工場

青森県五所川原市大字漆川字玉椿191-1
TEL.0173-33-0570 FAX.0173-34-5206

・岩手工場

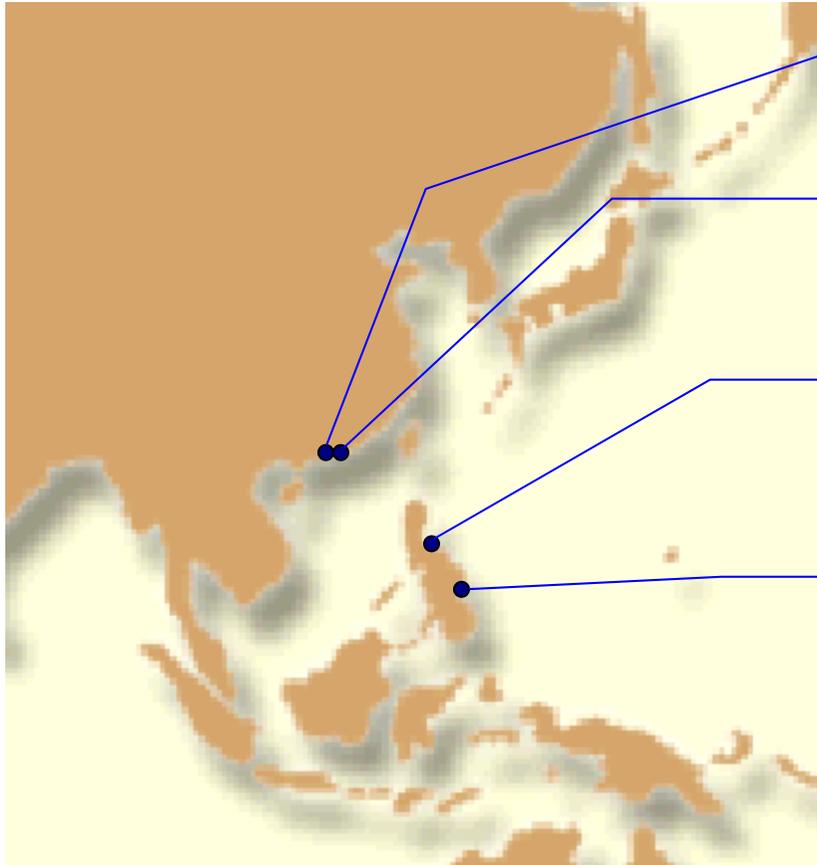
岩手県上閉伊郡大槌町大槌第10地割39
TEL.0193-42-8511 FAX.0193-42-8513

・本社／上野原工場

山梨県上野原市上野原8154-19
TEL.0554-62-5111 FAX.0554-63-4193

・塩山工場

山梨県甲州市塩山熊野666
TEL.0553-32-1111 FAX.0553-32-1159



▪ **ZHONGSHAN ENOMOTO Co.,Ltd.**
広東省中山市火炬開發区逸仙工業区
TEL.+86-760-8533-5111 FAX.+86-760-8533-5113

▪ **ENOMOTO HONG KONG Co.,Ltd**
香港九龍梳士巴利道3号星光行1805室
TEL.+852-2199-7848 FAX.+852-2199-7918

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**
PEZA-Gateway Business Park Javalera Gen.Cavite Philippine.
TEL.+63-46-433-0263 FAX.+63-46-433-0264

▪ **ENOMOTO PHILIPPINE MANUFACTURING Inc.**
CEBU OPERATIONS
Cebu Light Industrial Park, Special Economic Zone, Washington Road,
Basak, Lapu-Lapu City, Cebu, Philippines 6015
TEL.+63-32-341-2223 FAX.+63-32-341-2228

注意事項

事業の展望、業績予想等の将来の動向にかかる記載につきましては、歴史的事実ではないため、不確定な要素を含んでおります。

現在入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により予想と異なる結果となる可能性があることをご了承願います。

ENOMOTO Co.,Ltd.